

キャリア支援を考える 2 : 就職・進学支援 の前倒しにあらず

川喜多, 喬 / Kawakita, Takashi

(出版者 / Publisher)

教育新聞社

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

教育新聞 / 教育新聞

(号 / Number)

2529

(開始ページ / Start Page)

3

(終了ページ / End Page)

3

(発行年 / Year)

2005-03

キャリア支援を考える

—2—

とのわけ短大・大学などに急速に普及したキャリア教育・支援だが、よく見ると、就職支援の前倒し実施にすぎないことが多い。

長く不況が続き、就職事情は厳しい状態が続いている。また、不況の中で企業の採用行動は変化し、いきなり正社員にせず派遣社員などとして試し雇用をしたり、また非正社員比率を高めた組織づくりをしている。さらに「即戦力」なる妄想にとりつかれたこともあり、新入社員に求める要件は高度化した。

労働力需要が量・質ともに急変したわけであるから学生もあわてた。また少子化時代に入り、「選ばれる学校」に入るためには、学校という商品の前に躍り上がっている

「セールス・ポイント」が就職率のことにもなった。

そこにもまた、商売のネタを見つけたのが高度成長期に肥大化した進学・就職・転職情報会社であって、キャリア支援のシネスが雨後の竹の子のごとく現れて、就職支援を充実させないと学校は倒産しますよと脅かしてまわったせいか、やたらと一年生から就職支援をする学校が増えた。

もちろん、就職というのは恋愛やお見合い、さらにはシネス交渉にも通じる。手練手管はなくてはかなわぬところもある。しかし「面接の名人」だの「履歴書の神様」だのになつて就職技法ばかり、「化け方」ばかりを必死に学んで「うまくやった」と就職したとしても(就職情報雑誌の表紙やグラビアは、ちょうど進学雑誌に合格発表の看板を前に躍り上がっている

就職・進学支援の前倒しにあらず

君が就職するように飛び上がって喝采を叫んでいる人々の写真で満ちている。たしかにうちには違いないが、いったいその後はどうなるのだろうか。これを深く考えることが就職とか進学とかいわずにかいわずにキャリアという言葉を使うゆえんではないだろうか、と私は思う。学校の力が増えよう。学校でのキャリア支援は、目の前から学生を消してしまう(高校タラメで人生の役に立たないなら別である。まるで非常識で無用な授業などがないというわけでもないが(学校や教員は猛省すべき)、そうした勉強をせずして就職ばかり気にして厚化粧ばかりを学んだ学生を採用した企業は困るであ

「即効薬」による促成栽培になつてはいけな

法政大学キャリアデ
ザイン学部教授 川喜多 喬